

研究活動ご報告

2024 年度、多くの行事などが制限なく実施されるようになりました。とはいえ、この冬も新型コロナウイルス感染症やインフルエンザは随分と流行っているようです。風邪かな、というように思っている、いつまで経っても咳がおさまらない、という方も多いようです。みなさんは無事に過ごされていますか。

調査

今年度、質問票による調査は滞りなく進めることができ、すくすくコホート三重、武庫川チャイルドスタディのみなさまのご協力に感謝申し上げます。

すくすくコホート三重のみなさん

には、年末に 19 歳調査、20 歳調査をお送りしました。19 歳からは、Google Form を利用した WEB による回答もできるように用意しております。いつも利用している miED とは別に、webID と確認事項をお知らせしておりますが、パスワード設定はしておりませんので、間違えても回答を送信できてしまいます。入力間違えの無いようお願いいたします。また、くれぐれも他の方の目に触れないよう、管理をお願いいたします。「空いた時間にちょっとずつできるから良い」、「横幅に制限があるので見にくい」、などのご意見をいただいております。横幅の問題は、Google Form の仕様ですので変更できず申し訳ないのですが、タブレットや PC の画面ですと比較的に見やすいかと思っております。その他少しずつ改良していけたらと思っておりますので、是非、使ってみてのご意見をお寄せください。WEB 回答は 1 月末で一旦終了とさせていただきますが、紙の質問票は、いつでも受け付けております。また、ご実家を離れるお子さんも増えているかと思っておりますので、転送のご希望にも対応いたします。ご遠慮なくお申し付けください。

武庫川チャイルドスタディ高校 3 年生の方、たくさんのご返送をいただき、感謝いたします。まだお手許にございましたら、ご事情に合わせて、回答の時期をずらしていただいても構いません。お時間のある時に、あるいは、ちょっとした息抜きになるようでしたら、取り組んでいただければ幸いです。武庫川チャイルドスタディ高校 2 年生のみなさんには、いつもよりも少し遅いお届けになってしまいました。学年末の慌ただしい時期になってしまい、申し訳ありません。3 学期中にご返送いただければ幸いです。よろしく申し上げます。

また、武庫川チャイルドスタディでは、今年度は Zoom による面接調査を実施しました。高校生活の後半、忙しい中ご協力いただき、本当にありがとうございました。青春真っ只中のご様子、進路を早々に決めてほっとしているご様子、またお母さま方が、そろそろ自分の人生の次のステップを考えようとしている感じも伺えました。ご予約がうまく合わなかった方も、またお会いできる日を楽しみにしております。

今年度は久しぶりにイギリス心理学会（発達心理学部門）にて成果発表を行いました。パンデミックがあつてから、また、ウクライナ情勢、中東情勢もあり、海外渡航は中々難しかったのですが、ようやく外へ出ていくことが叶いました。学会はイギリス北部、長い歴史のあるグラスゴー大学構内にて開催されました。

9 月初旬、まだまだ西宮は真夏の暑さで、開空から飛び立った日は最高気温 35 度を超えていました。しかし、グラスゴーの朝、会場に向かおうと外に出ると、日影では息が白くてびっくりしました。

学会では、私どものコホート研究以外にも、長く縦断調査を続けている研究グループも発表をしていました。そういった中でも、本コホートの幼児期から青年期をつないだデータを示したところ、継続期間の長さにも驚かれました。発表は、子どもの自己抑制の傾向が、のちの青年期の進路選択や進路選択の満足に関連しているか、ということに関してでした。子どもの頃に自己抑制が安定していた（=毎回上手に我慢できていた）子どもたちと、そうでなかった（=ムラがあった）子どもたちとは、進路選択や進路選択の満足に関して大きな得点差はありませんでした。ただ、自己抑制にムラがあった子どもたちでは、中 3 で「まだ将来について考えていない」「誰か決めてくれたらいいのに」という得点が低い（=他力本願ではなく将来についてすでに自分で何かしら考えている）ほど、高校入学後、「今の環境は将来を考えるのにいいところだ」というように満足している（毎回上手に我慢できていた子たちが満足していない、ということではなく、中 3 でのようすと、高校入学後の満足には関連がなかった、つまり、他力本願だった中 3 でも高校に満足の子もいるし、自分で考えていて高校に満足している子もいる、ということになります）、などの結果を報告しました。幼児期から思春期までは随分と時間的に隔たりがありますので、本当に違いがあったと言ってよいのかどうか、今後とも丁寧に分析、発信を続けていきたいと思っております。

研究発表

今年度は久しぶりにイギリス心理学会（発達心理学部門）にて成果発表を行いました。パンデミックがあつてから、また、ウクライナ情勢、中東情勢もあり、海外渡航は中々難しかったのですが、ようやく外へ出ていくことが叶いました。学会はイギリス北部、長い歴史のあるグラスゴー大学構内にて開催されました。

9 月初旬、まだまだ西宮は真夏の暑さで、開空から飛び立った日は最高気温 35 度を超えていました。しかし、グラスゴーの朝、会場に向かおうと外に出ると、日影では息が白くてびっくりしました。

学会では、私どものコホート研究以外にも、長く縦断調査を続けている研究グループも発表をしていました。そういった中でも、本コホートの幼児期から青年期をつないだデータを示したところ、継続期間の長さにも驚かれました。発表は、子どもの自己抑制の傾向が、のちの青年期の進路選択や進路選択の満足に関連しているか、ということに関してでした。子どもの頃に自己抑制が安定していた（=毎回上手に我慢できていた）子どもたちと、そうでなかった（=ムラがあった）子どもたちとは、進路選択や進路選択の満足に関して大きな得点差はありませんでした。ただ、自己抑制にムラがあった子どもたちでは、中 3 で「まだ将来について考えていない」「誰か決めてくれたらいいのに」という得点が低い（=他力本願ではなく将来についてすでに自分で何かしら考えている）ほど、高校入学後、「今の環境は将来を考えるのにいいところだ」というように満足している（毎回上手に我慢できていた子たちが満足していない、ということではなく、中 3 でのようすと、高校入学後の満足には関連がなかった、つまり、他力本願だった中 3 でも高校に満足の子もいるし、自分で考えていて高校に満足している子もいる、ということになります）、などの結果を報告しました。幼児期から思春期までは随分と時間的に隔たりがありますので、本当に違いがあったと言ってよいのかどうか、今後とも丁寧に分析、発信を続けていきたいと思っております。

英訳心理学会の会場のようす。

19 歳調査（子ども用）の WEB 版です。

19 歳調査（子ども用）の WEB 版です。

今後の予定とお知らせ

2025 年 4 月から 2026 年 3 月までの研究スケジュール

『すくすくコホート三重』では、19 歳・20 歳のみなさまに、12 月に質問票をお送りしました。今年度の WEB による回答は締め切りでしたが、紙の質問票による調査は、引き続きご返送をお待ちしております。2025 年度も年末にご実家へ質問票をお届けする予定にしております。よろしくお願いたします。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
20 歳(高卒 2 年目)									郵送による質問票調査 (WEB あり)			
19 歳(高卒 1 年目)	新年度スタート!											

『武庫川チャイルドスタディ』では、2024 年度の高校 3 年生 (11 月)・2 年生用質問票 (2 月) をお届けしました。引き続きご返送をお待ちしております。高校 3 年生を対象に、2 学期 (11 月ごろ) に郵送による質問票調査を予定しております。高校を卒業された方には、12 月に質問票をお送りする予定です。よろしくお願いたします。また、2025 年度の夏のインタビュー調査の実施は、現在のところ未定です。決まり次第ご連絡させていただきます。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
高校 3 年生	(進級) 大学 1 年生・就職			インタビュー調査 (未定)					郵送による質問票調査 (WEB あり)			
高校 2 年生	(進級) 高校 3 年生			インタビュー調査 (未定)				郵送による質問票調査				

転居などでご住所や連絡先が変更になった方は、お手数ですが各研究グループへご連絡ください。お子さまのみお引越された場合、直接質問票をお届けすることもできますし、ご実家からご転送いただくなども対応いたしますので、ご遠慮なくお知らせください。また、お子さまがご多忙、あるいは父母等の方がご多忙、といった場合でも、**父母等の方のみ、お子さまのみのご継続**でもかまいません。もちろん、いつでも再開していただけます。ご都合に合わせて、細く長くお付き合いいただければ幸いです。今後ともご協力くださいますよう、よろしくお願いたします。

編集後記

昨年度のニューズレターでは、長らく活動拠点の一つであった武庫川女子大学子ども発達科学研究センターが閉鎖されます、というお知らせをいたしました。幸い、現在は武庫川女子大学教育総合研究所の子ども家庭部門として活動を続けております。とはいえスタッフが減ったため、何かとご不便をおかけし、申し訳ありません。今号の統括挨拶に触れておりますが、長く研究を統括してきた河合先生から、中山先生にバトンタッチされることになりました。また新たな体制で来年度も活動を継続できる見込みです。みなさまからお預かりした大切なデータを守り、生かしていけるように活動を継続したいと思っております。よろしくお願申し上げます。

【すくすくコホート三重】
〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内
TEL : 059-259-1211 (代)

【武庫川チャイルドスタディ】
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学
教育総合研究所 子ども家庭部門(子ども発達科学研究センター)
TEL : 0798-45-9870 FAX : 0798-45-9880 Email : info@childstudy.jp

この研究は文部科学省の日本学術振興会 科学研究費補助金 (課題番号 23K25735) から研究支援をいただいています。



すくすくコホート

令和 6 年度号

ニューズレター



研究統括からのご挨拶

ニューズレター令和6年度号によせて

研究統括 武庫川女子大学

河合優年



研究統括：河合優年

みなさまのご協力により、本研究も準備期間を含めると20年を数えるまでにになりました。一人ひとりの成長の過程を追跡することは、研究者が一方向的に望んでもかなうものではありません。調査に協力して下さるみなさまの理解がなければ成り立たないものなのです。このこともあり、世界的にも追跡調査の実施は困難なのです。我が国において心理的な発達を組織的に追跡している研究は皆無と言えます。国もこの研究の意義を理解して下さり、20年間にわたり研究の支援を継続してくれています。

この追跡研究は、次年度、協力者の方が全員18歳の成人を迎えることとなります。協力者の方々が社会人としての活動に移行してゆく段階になりました。国の予算が許すかどうかはわかりませんが、研究グループとしては、皆様の変化の過程をさらに追いつけることが出来ればと考えています。その時には改めてみなさまにご説明させていただき協力をお願いすることになるかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

みなさまの成長に伴う変化については、一人ひとりのデータを間違いなく繋いでゆく作業があるため、時間がかかっていますが、順次研究論文として発信させていただいております。可能であれば、一般の方むけの子どもの発達についての書物にできればとも考えています。なんともいっても、我が国で唯一ともいえる貴重な研究なので、社会に還元させていただくことが協力いただいたみなさまへの恩返しでもあると考えています。

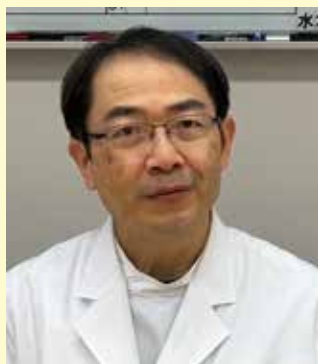
ご挨拶の最後になりましたが、これまで研究統括をしておりました私は、今年の3月末をもって統括の席を研究メンバーであった中山留美子先生にバトンタッチし、4月以降は研究メンバーとして研究に参画することになります。中山先生は4月より武庫川女子大学の教育総合研究所子ども家庭部門(子ども発達科学研究センター)の教授として着任されます。長い間にわたりご協力いただいたことに心より感謝いたしますと共に今後もよろしくお願い致します。

『すくすくコホート三重』から研究協力者のみなさまへ 三重中央医療センター 小川昌宏

長期にわたる発達調査・研究にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

世界に甚大な被害をもたらした新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も日本では2023年5月に5類感染症へ移行し、その後は元の社会交流を取り戻す様になりました。観光地にはインバウンドで人があふれ、制限されていた旅行、行事の中止、無観客でのスポーツイベントなどは過去のものとなりました。お子さまが中学・高校生の時はCOVID-19のパンデミックでいろいろな生活制限も多く、やりたいことも思ったようにできずにストレスの多い日々を過ごされたのではないかと想像します。パンデミック以外にも近年の自然災害や異常気象、少子高齢化、国際関係など社会情勢の不安が、お子さまの心身発達に少なからず影響したことは間違いありませんが、大変な時期をご家族の皆さまと一緒に乗り越えて成長を続けておられるお子さまのご健康とご多幸を心より祈っています。

2005年からご協力いただいている追跡調査は、成長したお子さまの社会的行動が成長過程での外的要因(環境)や内的要因とどのように関係しているか、医学、発達心理学など様々な視点で分析するという壮大な研究です。三重中央医療センターの臨床研究部では研究チームの田中滋己先生が新たに次世代シーケンサーという最新の機器を用いて学童期におけるストレスに関連した遺伝子発現の状態について解析を進めていただいております。どのような結果がでるのを楽しみにしております。皆さまからお力添えいただいた調査内容が発達研究の発展につながることを信じています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



はじめまして。よろしくお願いたします。
4月から研究統括を引き継がさせていただきます。

奈良教育大学 中山留美子

このたび、来年度で武庫川女子大学を退職される河合優年先生よりバトンを受け取り、4月からの研究統括を拝命いたしました。現在奈良教育大学の教員ですが、4月からは武庫川女子大学教育総合研究所の教員として新たな研究生活をスタートする予定です。新参者の私ですが、長きにわたるすくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディの試みについて、ずっと様子を拝見してきました。最初は三重大学の学生だった頃、担任の先生のような存在だった河合先生が、新たな挑戦のために三重大学を離れ、武庫川女子大学に移られるという出来事から。河合先生から子どもの発達について学びたいと思っていた私は、これからどうしようと少し混乱しました。その後大学院生、大学教員となったことで、学会などで取り組みの様子を知る機会をいただき、ご縁あって奈良教育大学に着任した後は、たまに武庫川女子大にお邪魔して、研究の具体的な取り組みについておうかがいしたり、少しずつ調査に関わる機会をいただいたりするようになりました。

この間、研究に協力して下さっているみなさんは、赤ちゃんから青年に、そして成人(の保護者、親御さん)になろうとされています。私の主な研究対象は青年、思春期から成人になるまでの十数年あまたの時期の人たちで、特にこの頃の人たちが、「自分」とどのように向き合っているのかということに関心があります。たとえば自尊心感情(“私ってこれでいいの?”)やアイデンティティ(“私ってどんな人間なの?”)は、心理学を専門としない一般の青年や成人も、社会で生きていく中で自分と向き合うときに、意識する言葉(問い)かもしれません。自分に関するこうした言葉(問い)と向き合っていくためには、同時に保護者の方など身近な人も含む「他者」に認められるかどうか、ということも向き合っていくこととなります。

みなさんの協力により得たデータからも、思春期からの「自分」との向き合いに関していくつかの発見をいただいております。例えば、小学校の頃の自尊心感情が学校での勉強に関する自己評価によって主な影響を受けることや、その影響が保護者の方の養育ストレスやしつけのしかたによって違ってくるということです。また、一般的には小学校の中学年頃から「自尊心感情が低下する」といわれています。しかし、一人の人のデータをつないでいくことで、自尊心感情がずっと低かったり低下したりする人たちがいる一方で、ずっと高い人やだんだん上昇していく人がいることが見えてきました。また、保護者の方の養育ストレスと、自尊心感情がずっと低いことや低下していくことと関連しているということもわかりました。

自分と向き合うという営みは、青年期に始まり、生涯続きます。仕事をするなかで、大学教員やカウンセラーとして小学生から成人までのみなさんの相談にのることがありますが、小学校高学年くらいの人も、40代、50代の保護者の方も、自分と向き合うなかで生まれた悩みとたたかっているんだなと感じています。上記の発見は、「親が育児にストレスを感じながら子どもに関わっていると子どもが影響を受ける」ということかもしれない一方で、子どもが学校での勉強に悩み、「自分はダメなんだ…」とつまづいているほど、保護者の方に「どうやってこの子に関わればいいんだろう」「自分は十分にこの子に対する関わりができていない」というストレスを感じやすいということかもしれません。

勉強や仕事など、個人的な活動で頑張っている自分も自分の姿ですが、親としての姿もまた自分で、人は、年齢を重ねるほど、色々な役割を担いながら生きていくことになり、その都度「私って…」という問いが生まれ、その喜びを経験したりもしますが、新たな葛藤に直面したりもします。

私自身、今40代で成人期のまっただなかにはありますが、新たな形で研究に関わることになり、遅ればせながら親として子どもに向き合っていくことにもなり、再びいくつかの形で自分と向き合っているところですが、みなさんも、学校、職場、家庭とそれぞれの場所で、時々「私って…」と思いながら生活されているのではないのでしょうか。質問票には、毎度同内容と、時期に合わせた内容とがあります。質問票へのご回答を、ご自身と向き合う機会としていただき、悩めるときや誰かと一緒に考えてみたいときには、お気軽にご連絡いただければと思います。

みなさんがご協力くださることで、追跡研究でしか解明できない問いに挑むための貴重な資料が得られます。私は「人は人生の中でどのように“自分”と向き合っていくのか」という、大きな問いについて、これまでみなさんから長年にわたって提供いただいていたくださったデータに向き合いながら、色々な発見をしたいと思っています。また、ややもすれば、つらい、苦しいとなりがちな「自分と向き合うこと」が、少しでも楽に、楽しく、自分に優しくするための活動になるような発見ができれば、そしてそれをみなさんと共有していけたらと思っています。



大人になっていくみなさんへ

河合優年

協力して下さっているみなさんが昔の成人式を迎える年齢になられました。歳をとってきた身からすると何となく嫉妬してしまうような年齢ですね。今の時代は穏やかで、職業や大学進学などでも自分の考えを持つことができ、それを大人が受け入れてくれるような感じがします。でも心の中に踏み入ってみるとそうでもないということが研究結果から見えてきます。

今回は青年期の心の問題について私の青年期の思い出とともに書いてみることにします。私自身がどうだったかなと思い出してみると、まだまだ大学紛争盛んな頃で、Don't believe over 30(30歳以上の人間は信用するな)ということで、大人に対して強い不信感を持っていました。大人のことや自分が分からない。自分のことを棚に上げておいて理想的な事ばかり言う。でもつついっほかの人と比較している自分があることに気付いて、これではいけないと反省する。自分のことは自分で決めたいがなんとなく自信がない。「おいおいしっかりしろ」と自分に言い聞かせている自分がある……。

青年期には、14、15歳から24、25歳までの性的成熟を伴う急激な身体的変化と、心理的な内省的傾向(自分のせいでこうなったのかなと考えてしまうような自分の内側に原因を見つけようとする傾向)、自我意識の高まり(私は私で他の誰でもない、という自分自身のとらえ方)がみられます。また、子どもの頃の友達関係と少し違った関係性が形成されるようになり、生涯の親友ができたりします。周囲の人間関係も複雑化して、自分と他者との関係性が、不安・いらだち・反抗など精神の動揺の原因となってしまうことが多くなります。もちろん、このような不信などの心の揺らぎを経験しない人たちも大勢いますが、自分と向き合う人たちも大勢いるのです。

最近では、ある日を境に突然成人扱いに変わる、というようなことはほとんどなくなりました。選挙権を得て、お酒が飲めるようになって、まだ一人で暮らせるほどの稼ぎはなく、お家の方が炊事洗濯をしてくれている、という20代は決して珍しくはありません。このような社会環境、生活状況の変化などから、青年期的な心の揺らぎが30～35歳程度まで続くとする考え方や、生涯青年というような極端な考え方も現れてきています。

このことは、親からの自立とも関係しています。巣から飛び立とうとする若鳥が、ためらいながら「えいや」と飛び立つ姿と似ているかもしれません。子どものままでいると楽かもしれないし、飛び立つのは怖い気もする。しかし、ここに居続けることはできないという思いが強くなるのです。そのことが、いやでも自分の心と向き合う自分を作ることになるのです。その瞬間のみんなの中には、輝かしい成功への期待と残念な失敗を回避したいという安全志向が同時に存在しているのです。

失敗は、大人に対する依存的・服従的な関係から対等な立場に立とうとする自分の無力さを見せつけてきます。私は受験に失敗し、浪人を経験しました。あれほど偉そうに言っていたのに、という親の声が聞こえてきそうでした。もんもんとした一年間を過ごしたあと、今の仕事につながる進路を選ぶことになりました。今日にいたるまで、つらいこともいろいろとありましたが、それなりの満足感を持っています。

青年期という可能性多き時代にいるみなさんをちょっと羨ましく思いながら、私自身の昔を振り返って、「少々の遠回りは恐れずにチャレンジすれば、それなりの結果が得られるよ」というエールを送りたいと思います。頑張ってください。

